

消防団員災害救援 ストレス対策研修を実施して

姫路市消防局

1 はじめに

姫路市は、兵庫県の南西部に位置し、北は中国山地、南は瀬戸内海に面する県内第2位の商工業と人口を擁する播磨地方の中心都市であります。

気候は温暖な瀬戸内式気候に属し、年間を通じて日照時間が多く、天気や湿度が安定しており比較的降水量の少ないのが当地方の特徴です。

市の中心部にある姫山には、ご存知「世界文化遺産・国宝姫路城」がそびえ立ち、市北西部にある西の比叡山とも呼ばれる「古刹、書写山円教寺」とともに姫路市を代表する観光名所となっており、NHK大河ドラマ『軍師官兵衛』の舞台となったこともあり、昨年は多くの観光客にお越しいただきました。

簡単に本市の歴史を紹介いたしますと、明治22年4月1日、市制施行により誕生、その後数回にわたる周囲市町村との合併を経て市域を拡大し、平成8年4月に県下で最初の中核市に指定されました。

近年では平成18年3月に近隣四町を編入合併し、人口53万人超、面積約534平方キロメートルの現在の姫路市となっております。

2 姫路市の消防団の概要

兵庫県には全部で41の市町があり、そのうち3市が多団制を敷いております。

当市もその一つであり、現在8消防団、72分団、条例定数3,226人で構成されており、管轄区域の形態は中山間地を中心とする消防団から周囲を海で囲まれた島しょ部にある消防団まで実にさまざまあります。

当市消防団の沿革を振り返りますと、明治17年3月、市内にある船場本徳寺という寺院に設

置された私設消防組の発足が始まりといわれており、その後、「公設消防組」への移管や「警防団」への改称を経て、昭和22年、消防団令の公布に伴い1消防団、29分団、団員数3,345人の、当時県下最大となる「姫路市消防団」が誕生いたしました。

その後も近隣町村との合併により市域が拡大、時代に応じた分団数や団員定数の見直しを行うとともに、昭和44年にそれまでの1市1団制を1市4団制に改編いたしました。

そして平成18年、平成の大合併により編入した近隣4町の4消防団を加え、現行の8消防団体制が確立されております。

3 消防団員災害救援ストレス対策研修開催の経緯

姫路市では、消防団幹部を育成するため毎年、消防学校の教育・研修課程に各団からの代表者を入校させる他、市独自で幹部教育訓練を行っております。

内容は、実科研修と学科研修で構成されており、実科研修については消防学校から教官を招き、厳正な規律を身につけることを目的に訓練礼式等を中心に実施しており、学科研修については消防団員の飽きが来ないように毎年内容を変えて実施しているところであります。

そういったときに消防基金が実施している「公務災害防止研修事業」を知り、平成23年度は「消防団員安全管理セミナー」を、平成24年度は「S-KYTR研修」を、そして、平成25年度は「消防団員健康セミナー」を消防団の幹部教育訓練に活用させていただきました。

消防基金が実施している公務災害防止研修事業をひととおり終了し、次年度の研修計画を策定し

ていたところ、新たに「災害救援ストレス対策研修」が研修事業に追加されたことを知り、タイムリーな研修内容とばかりに、早速、開催申込を行うこととなりました。

と申しますのは、姫路市では平成24年9月、コンビナート火災により消防職員1名が殉職し、消防職員・警察官・従業員36名が負傷する痛ましい事故が発生しております。

幸い出勤された消防団員にケガはなく、その後のケアとして行った「惨事ストレス・健康調査」でも団員のストレス反応はほとんど認められませんでした。

しかし、近年は災害種別の複雑・多様化に加え、集中豪雨による土砂災害などにより多数のかたが命を奪われる事案も近隣で発生しており、当市においても決して他人事ではなく、消防団員がいつなんどき凄惨な災害現場に遭遇し、ストレス障害を発症するかもしれないことから、惨事ストレス対策の啓発普及が急がれるところだったからです。

4 消防団員災害救援ストレス対策研修を実施して

平成26年11月16日（日）岡山県精神保健福祉センター所長の野口正行氏を講師にお迎えし、災害支援者のストレス・惨事支援のメンタルヘルスの問題・災害支援者のメンタルヘルスなどについてわかりやすく講義を行っていただきました。

惨事ストレスは「異常事態に対する正常な反応」

であり、誰にでも起こりうることを前提に、災害現場だけでなく日常生活を含めPTSD発症の誘因や症状、PTSDに併発するうつ病、アルコール依存、摂食障害などについて詳しく解説をしていただきました。

受講した団員からは、「今回の研修でいろんなストレスの種類や症状があることがわかりメンタルヘルス対策の重要性が理解できた。学習したことを消防団活動だけでなくふだんの生活や仕事にも生かしたい。」など前向きな意見が多く寄せられ、たいへん有意義な研修会となりました。

5 今後の取組について

最近の研究では、南海トラフを起因とする巨大地震の発生確立の高まりも指摘されており、当市においても火災対応だけでなく地震・津波・豪雨・土砂災害など地域防災力の中核として消防団に寄せられる期待は年々大きなものとなっております。

それだけに消防団員のかたが担う社会的責任も増加しており、使命感から本人が自覚し難いままストレスが進行することも勉強させていただきました。

今回の研修内容を受講者のみならず多くの団員で共有できるよう各分団に持ち帰り、それぞれの分団でもストレス対策研修を実施し、各人がしっかりとセルフケアを行うことにより消防団員として心身ともに良好な状態を保っていきたいと思います。



研修の様子1



研修の様子2